

日1日をもっと自由にいきいきと楽しむマガジン

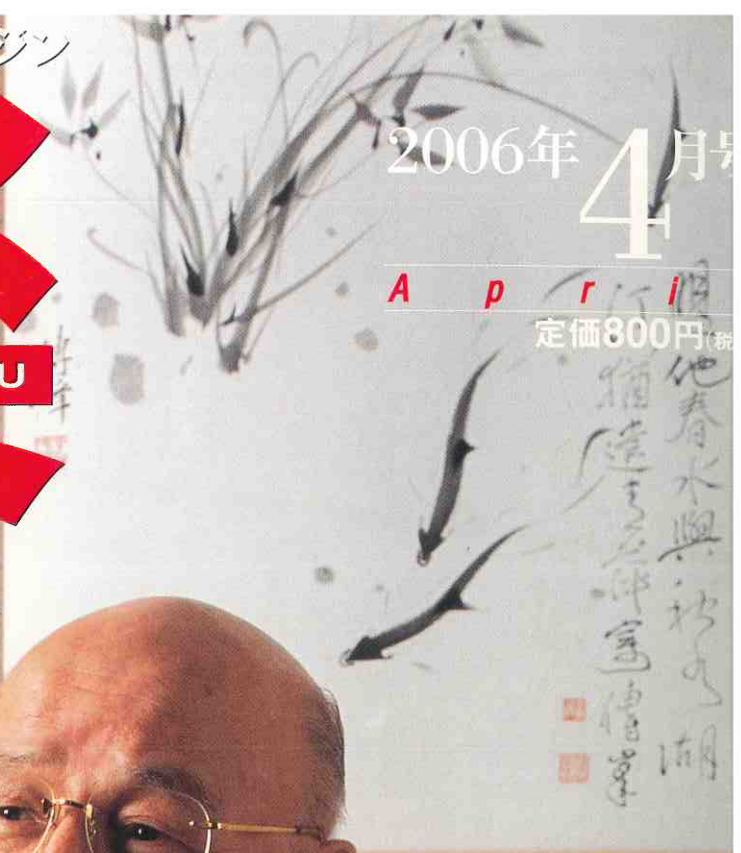
2006年4月号

A p r i l

定価800円(税別)

百楽

HYAKURAKU

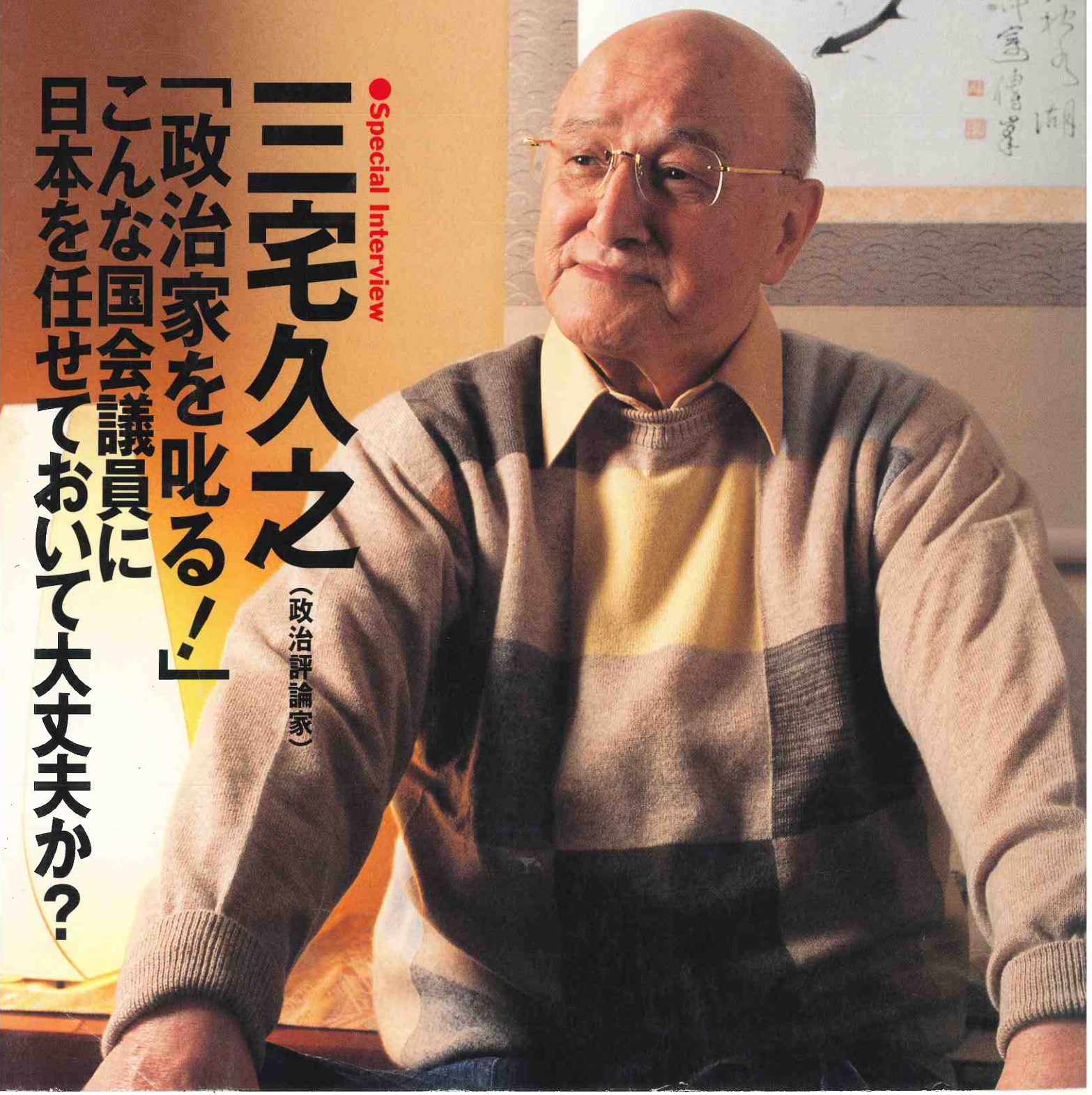


●Special Interview

三宅久之

(政治評論家)

「政治家を叱る！」
こんな国会議員に
日本を任せられて
大丈夫か？



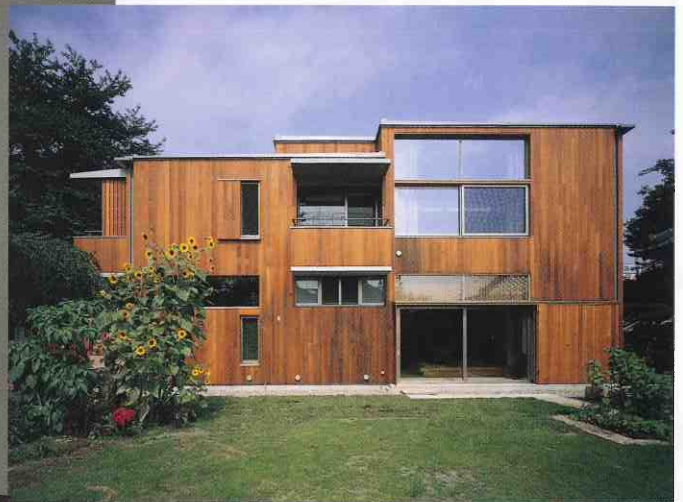
夢のハウジング探検

Housing

安心して 住み継いでいける家

A house that will survive generations free of care.

日本の住宅は20年から30年のサイクルで建てては壊し、といったスクラップ&ビルドを繰り返してきました。しかしその後に残るのは大量の廃棄物だけです。今回は子から孫へと住み継いでいける、丈夫で安心して暮らせる家をご紹介します。



駅からすぐのロケーションでありながら、樹木に囲まれた好立地。コンクリート造のスクエアなデザインの建物は、まわりの緑と溶け込むレッドシダーの板で仕上げている。



1階中央のホールと階段。この階段スペースを境に、向かって右側が住人の事務所。左側が親戚などが集まるときに使用する「集いの間」となっている。

撮影・ナカサ&パートナーズ

2階のプライベートスペース。約2畳のLDには畳コーナーもありシックで落ち着いた雰囲気。天井高が4メートル近くあり、窓からは樹木の緑が見えたり、光が差し込み開放的だ。ダイニングテーブルは、かつて敷地内に植えられていたケヤキの木を製材して使用。

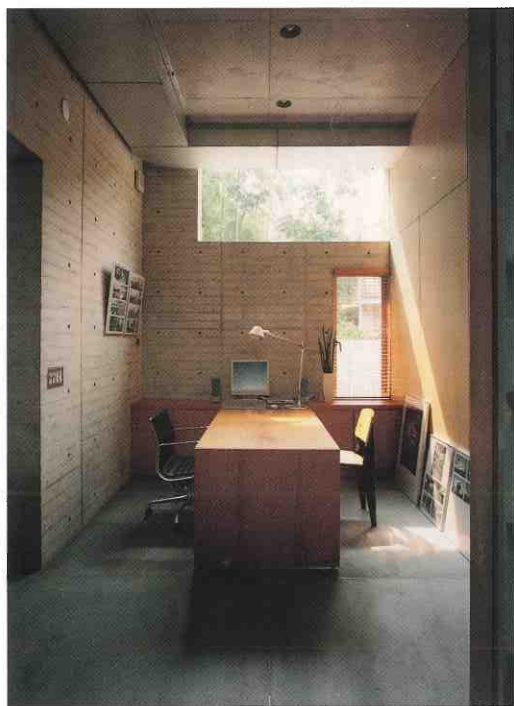




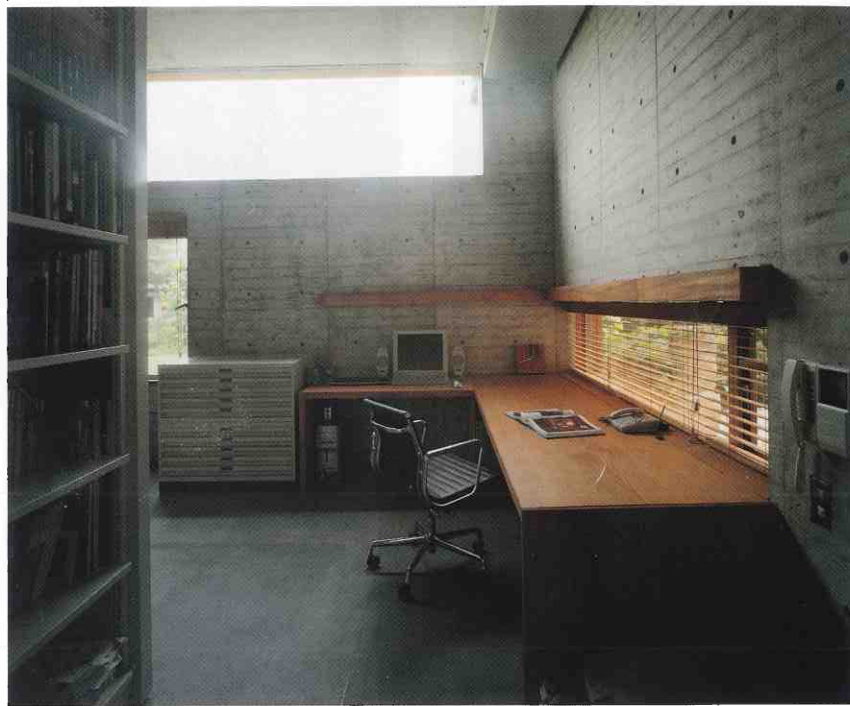
1階の「集いの間」のサッシュを明け放せば、前面の庭と一体に。四季折々の家族イベントが行われる。露地（土間）には、建て替え前の家の塀に使われていた大谷石を、和室の長押や鴨居、床柱などには、敷地内に植わっていて20年前に切り倒し保存してあったケヤキの木を使用。

安心して住み継いでいける家

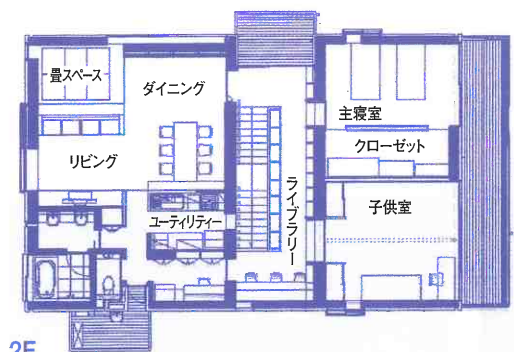
A house that will survive generations free of care.



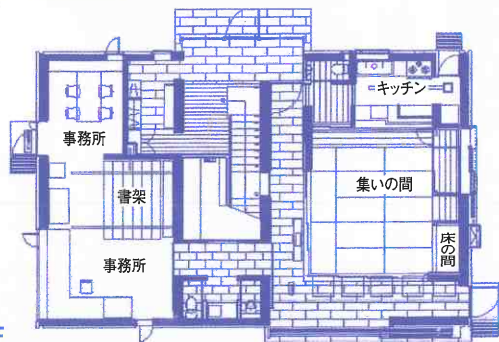
事務所の打ち合わせスペース。ハイサイドウィンドウから日差しが入り込み、天井も高く気持ちが良い。収納量たっぷりの書架もある。



1階、住人の事務所スペース。壁はコンクリート打ち放しだが、型枠に使用した杉材の板目を浮き彫りにする仕上げで柔らかな印象に。床は墨入りのモルタル仕上げ。デスクにはケヤキ材を使用。



2F



1F

建築DATA

敷地面積 950.44㎡
 建築面積 167.94㎡
 延床面積 299.28㎡
 1階面積 143.88㎡
 2階面積 155.40㎡

設計 中村雅子デザイン事務所
 TEL 03-5305-2772
 東京都杉並区大宮2-13-10
<http://profile.allabout.co.jp/pt/taller/index.htm>

構造設計 山田構造設計事務所
 設備設計 ZO設計室
 施工 岩本組

家を新築する場合、間取りとともに決めなければならないのが構造です。一般的には木造が多いのですが、鉄骨造、RC構造（鉄筋コンクリート造）などいくつかの選択があります。住人は構造設計の専門家です。自ら構造設計と監理を行いました。「RCだからといって木造や鉄骨造

設計は旧知の建築家、中村雅子氏に依頼。両親の敷地内にあった築約50年の建物を解体し、そこに親戚などが集まれる「集いの間」、事務所、住居と3つの機能を持つ家を建築。一代限りではなく、子から孫へと住み継いでいける家にするのもテーマの一つでした。

「家」を新築する場合、間取りとともに決めなければならないのが構造です。一般的には木造が多いのですが、鉄骨造、RC構造（鉄筋コンクリート造）などいくつかの選択があります。住人は構造設計の専門家です。自ら構造設計と監理を行いました。「RCだからといって木造や鉄骨造

に比べて頑丈だということはありません。基本的な強度を確保することはどんな構造でも可能ですし、我々にとっては安心して暮らせるだけの強度を持たせることは当たり前のことなのです。ただこの家の場合は、柱や梁がない開放的な間取りや高い天井、大胆な開口を実現するためにRC造を選択しました」

Concept

コンクリート造とは思えない
 自然と溶け合うナチュラルなデザイン

2 Concept

子から孫へと住み継ぐため ローメンテナンスで維持できる家に

家全体は9・5×15mのスクエアな形。天井が3m以上あり、開放感に満ちています。1階は住人の事務所と親戚などが集まる場合の集いの間を設けてパブリックスペースとし、2階フロアが家族4人の居住スペース。各所に、この土地で育ったケヤ

キの木が使われています。「施主が蔵に20年近く保存していたケヤキの原木があったのです。自然乾燥させたケヤキの木は品質として最高のもので、その柁目を基本として板材や和室の造作材などに加工して設計しました」

と設計家の中村氏。また、この場所に塀としてあった大谷石は1階ポーチに敷き、再利用しました。

近年、日本の家は20〜30年の周期で建てては壊す「スクラップ&ビルド」が行われてきましたが、この家の歴史を継承し、住み継ぐことをテーマに建築。落ち葉が詰まりにくい雨樋、メンテナンスが簡便な温風式の蓄熱式床暖房など、ローメンテナンスで維持できる工夫が随所にされています。



2階の主寝室と子ども部屋に面したデッキバルコニー。軒先とバルコニーの手すりの間には、ガラリ状の雨戸があり、蒸し暑い夏に通風をとりながら、安心して寝られる。



1階の事務所から玄関ホール、集いの間を見たところ。左手には図書館のような可動式の書架があり、幅3m×高さ24mの本棚が7列ある。収納量たっぷりだ。



2階主寝室はナチュラルでシンプルなインテリア。床は温かみのあるコルクタイルを使用。蓄熱式床暖房が施されているので、冬に素足で歩いてもヒヤッとしな



安心して住み継いでいける家

house that will survive generations free of care.

本はRC造(コンクリート造)、内装には無垢材やシックいなど自然素材を使用。さらに外断熱工法を用いて、冷暖房効率のよい家にしていく。暖房はエネルギーを灯油とし、温風でコンクリートの床面を温める蓄熱式床暖房を採用。メンテナンスがしやすいように、と考えた結果。

